

朝鮮殉教者の遺骨、かつて大浦に

9 月 29 日 (木) 10 時 55 分から大浦天主堂境内において、韓国・大田教区の兪興植司教と高見三明大司教が共同で、かつて朝鮮で殉教した 4 人の殉教者 (1984 年に列聖) の遺骨をベルナル・タデー・プティジャン司教が預かったことを記念する石碑を除幕した。4 人の殉教者とは、第 5 代朝鮮使徒座代理区長



鮮使徒座代理区長は、この記念碑を通じて韓国の教会と長崎教区との深い縁を後世に伝えたいと述べ、高見大司教からは、これを契機に両教区、ひいては日韓の教会の相互理解が深まることを望む旨あいさつがあった。また、田上富久長崎市長から 90 人近くの巡礼団のほか、長崎教区関係者ら合わせて 130 人余が参加した。石碑の光があてられ、世界に広く発信されていくことを期待するとのメッ



高見三明大司教は説教の中で、「悪天候の中これだけの参加者を得て殉教祭を大切に思う気

9 月 18 日 (日) 14 時、第 27 回福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭が行われた。当日は大雨のため、会場が焼罪史跡公園から田平教会聖堂に変更された。ミサでは、平戸地区の 8 人の司祭と各小教区の信徒、修道者、また佐世保地区からの巡礼団を合わせて約 250 人が共に祈りをささげた。



折が良いように思えるが、どうだろうか。しかし、我々は励まなければならぬのだ。(S)

日韓の深い縁を記念

大田教区が大浦に石碑建立

アントワ 882 年に迫害の懸念が、高まる。当時、朝鮮国内で活動していたマリイ・ジャン・ギユスターヴ・ブラン師 (後に第 7 代朝

鮮使徒座代理区長は、この記念碑を通じて韓国の教会と長崎教区との深い縁を後世に伝えたいと述べ、高見大司教からは、これを契機に両教区、ひいては日韓の教会の相互理解が深まることを望む旨あいさつがあった。また、田上富久長崎市長から 90 人近くの巡礼団のほか、長崎教区関係者ら合わせて 130 人余が参加した。石碑の光があてられ、世界に広く発信されていくことを期待するとのメッ

セージが寄せられた。長崎教区と同様、多くの殉教者を生んだ大田教区とのさらなる交流が期待される。

9 月 18 日 (日) 14 時、第 27 回福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭が行われた。当日は大雨のため、会場が焼罪史跡公園から田平教会聖堂に変更された。ミサでは、平戸地区の 8 人の司祭と各小教区の信徒、修道者、また佐世保地区からの巡礼団を合わせて約 250 人が共に祈りをささげた。

お集まりの皆さんは、平戸地区の代表であると同時に、ここに來ることのできなかった人々の代表でもあります。殉教したカミロ神父は、迫害する人を赦し、神のいつくしみを自分の命を与えて証ししてくれました。私たちもまた、洗礼の時に原罪と自罪を赦されて神の子となつています。殉教の重みはいつの時代にも証しです。私たちも現代に神のいつくしみを証しする人になれるよう願ひましょう」と招いた。

準備を担当した平戸教区は、この日のために 3 回にわたって公園を清掃していた。会場は変更になったが、当日のミサではラテン語で信仰宣言を歌うなど、典礼にも工夫と準備を重ねていた。

折が良いように思えるが、どうだろうか。しかし、我々は励まなければならぬのだ。(S)

9 月 22 日 (木) 教区典礼委員会 (下山盛朗委員長) は、宮越俊光氏 (日本カトリック典礼委員会秘書) を講師に招き、「より豊かな典礼を祝うために」をテーマに公開典礼講座を開催した。当日は秋分の日で各地でい



ろいろな行事が行われていたにもかかわらず、約 250 人がカトリックセンターに集まり、関心の高さをうかがわれた。

昨年、11 月 29 日 (待降節第一主日) から「ローマ・ミサ典礼書の総則」の一部変更が実施されることを受けて、同委員会では 11 月 15 日に白浜満師 (現広島司教) を講師に迎えて講座を行った。その際、多くの質問が寄せられたことから、信徒がさまざまな疑問や問題を抱えながら典礼行事に参加していることを痛感、今回の開催となった。

事前には小教区や修道会に典礼に関する疑問を聞き、集まった質問を整理、これに講師が答える形式で行われた。宮越氏は一つ一つの疑問に丁寧な説明を加えながら答えた。

講座後のアンケートには、「このような講座をもっと続けてほしい」「教会や司祭によつてまちまちなので統一を」「まず司祭がもっと勉強してほしい」などの意見が寄せられた。

主な質問と答えは次のとおり。

Q 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言うのか。

A 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言い、会衆は言わない。侍者がいないときは、朗読者も会衆も何も言わない。

Q 奉献文の結び「キリストによつて、キリストとともに……」の後、会衆は「すべての誉れと栄光は……」から歌うのか、「アーメン」だけを歌うのか。

A 奉献文の結びは司祭が最後まで歌い、会衆は「アーメン」だけを歌うのが本来の形。

Q 献金はいつ集めるのがふさわしいか。

A 献金の集め方は教会によつて違うが、共同祈願中に集めるのはふさわしくない。

Q 祭壇の花の飾り方は。

花は絶対に飾らなければならぬものではないが、飾る場合は節度をもつて飾ることが大切。日本では、四旬節にも控えめに飾ることができる。

Q 一日にできる聖体拝領の回数。

A 本来、一日に一回だが、同じ日に別のミサに参加した場合に限り、再度拝領することができる。

Q ミサ後の祈りについて。

A ミサの終わりの「行きましよう。主の平和のうちに」という派遣の言葉によつて信者は社会に派遣されるので、派遣の後に長くどまらずに祈りを唱えるのはあまりふさわしくない。

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

準備を担当した平戸教区は、この日のために 3 回にわたって公園を清掃していた。会場は変更になったが、当日のミサではラテン語で信仰宣言を歌うなど、典礼にも工夫と準備を重ねていた。

主な質問と答えは次のとおり。

Q 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言うのか。

A 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言い、会衆は言わない。侍者がいないときは、朗読者も会衆も何も言わない。

Q 奉献文の結び「キリストによつて、キリストとともに……」の後、会衆は「すべての誉れと栄光は……」から歌うのか、「アーメン」だけを歌うのか。

A 奉献文の結びは司祭が最後まで歌い、会衆は「アーメン」だけを歌うのが本来の形。

Q 献金はいつ集めるのがふさわしいか。

A 献金の集め方は教会によつて違うが、共同祈願中に集めるのはふさわしくない。

Q 祭壇の花の飾り方は。

花は絶対に飾らなければならぬものではないが、飾る場合は節度をもつて飾ることが大切。日本では、四旬節にも控えめに飾ることができる。

Q 一日にできる聖体拝領の回数。

A 本来、一日に一回だが、同じ日に別のミサに参加した場合に限り、再度拝領することができる。

Q ミサ後の祈りについて。

A ミサの終わりの「行きましよう。主の平和のうちに」という派遣の言葉によつて信者は社会に派遣されるので、派遣の後に長くどまらずに祈りを唱えるのはあまりふさわしくない。

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

2016 年度公開典礼講座 より豊かな典礼を祝うために

「まず司祭がもっと勉強してほしい」などの意見が寄せられた。

主な質問と答えは次のとおり。

Q 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言うのか。

A 朗読後の「神に感謝」は侍者だけが言い、会衆は言わない。侍者がいないときは、朗読者も会衆も何も言わない。

Q 奉献文の結び「キリストによつて、キリストとともに……」の後、会衆は「すべての誉れと栄光は……」から歌うのか、「アーメン」だけを歌うのか。

A 奉献文の結びは司祭が最後まで歌い、会衆は「アーメン」だけを歌うのが本来の形。

Q 献金はいつ集めるのがふさわしいか。

A 献金の集め方は教会によつて違うが、共同祈願中に集めるのはふさわしくない。

Q 祭壇の花の飾り方は。

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で

高見三明大司教主司式に際し、9 月 22 日 (木) に記念ミサおよび祝賀会を執り行った。

祝賀会は、高校生 2 人によるスライドを使った大曾教会の歴史の紹介から始まった。続いて中濱繁喜師 (大曾主任) が「ようこそ、祈りが染み込んだ大曾教会へ」の言葉で



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・一般 難民を受け入れる国々への支援
- ・宣教 司祭・信徒の協働と教会への奉仕
- ・日本 死者への祈りといのちを大切にす社会の建設

教区顧問会報告

手持ち金と 7 千万円の小教区互助基金からの借入で、来年 1 月着工、8 月完成の予定。小教区互助基金からの借入は、上神崎教会、深堀教会に次いで 3 件目。現在、同基金には 25 小教区が参加しており、具体的な助け合いが実現している。

次に、小ヶ倉教会を委託されているマリア会から、来年 6 月 25 日で期間満了となる委託契約を更新しない方針であることが示され、その対応を協議した。教区としては、その後も小ヶ倉小教区を維持することを確認し、マリア会と

協議することとした。その他、浜申教会鐘樓の修繕、引退司祭の施設などを検討するプロジェクトチームの立ち上げについて審議され、それぞれ承

り、来年 6 月 25 日で期間満了となる委託契約を更新しない方針であることが示され、その対応を協議した。教区としては、その後も小ヶ倉小教区を維持することを確認し、マリア会と

協議することとした。その他、浜申教会鐘樓の修繕、引退司祭の施設などを検討するプロジェクトチームの立ち上げについて審議され、それぞれ承

ほしかげ

本紙でもお気づきのよう、このところ行事が目白押しだ。例年の各地の殉教祭に加え、韓国の教会との交流、信徒・修道者・司祭の研修会など、息つく間もない。紙面だけを見ると、大変活発に見える。一方で、そのたびに指摘されるのが参加者の減少傾向である。宣伝が足りないのではありません。かとの反省もあるが、問題はもっと根本的なところにある。それは、かつて小教区をけん引していた世代の高齢化と、若い世代の人口減少である。今後、司祭が減少していくことは避

けられない。十数年かけて養成するのだから、今の神学生数以上に司祭が誕生することはほとんどない。信徒数も同様だ。自然減と人口流出が止まらない中、とりわけ離島・半島地域では、集落自体の存続が危ぶまれている。これが現実なのだ。だからといって、福音宣教をあきらめるわけではない。定住人口は減少しているが、過疎地域にいてさえも交流人口 (その地域を訪れる人) は増加している。しかも、その多くが教会を訪れているのだ。新しい福音宣教つまり新たな方法・新たな表現・新たな情熱が求められている。パウロは言う。『御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい』(II テモテ 4・2)。私には折が良いように思えるが、どうだろうか。しかし、我々は励まなければならぬのだ。(S)



高山右近列福へのカテケージス③ ユスト高山右近という生き方 ―刻まれた三つの試練―

列聖推進委員会 古巣馨

◆陶工と粘土

「聞いかけたいことはもうなくなつていた。答が分かつたからではなく、答が分らないことが答だと知つたから。」

(谷川俊太郎「見舞い」から)
どんなに苦悶しても、人にはどうしても抑制できないもの、腑に落ちないものがあります。でも、それに抗うことをやめて身をあずけたとき、こんこんとその意味が湧いてくることもあるのです。「死ぬくらい痛い目に遭うか、涙が止まらないくらい大きなお恵みを頂くかしないと、人間は変わらないなあ。」灰燼と化した司祭館跡に佇んだ神父の独白です。荒れ狂う炎の前に、半開きの口から血が奪われていく感じがしたといいます。

「しかし、主よ、あなたは我らの父。わたしたちは粘土、あなたは陶工。わたしたちは皆、あなたの御手の業」(イザヤ64・7)。
苦しみの神祕をひもとく神からの啓示です。粘土は陶工に注文をつけたら都合を言ったりする立場ではありません。陶工の望みのままに、その手の中でこねられ整えられて、使い勝手のいい形に仕上げられていく。そうして苦しみは忍耐を生み、忍耐は品性を生み、品性から生まれた希望は決して失われることはありません。

聖書は、希望を生み出す苦しみを「試練」と呼びます(ヤコブ1・2・18)。高山右近の人生には三つの試練の痕が刻まれています。その痕を覗けば、神の手の中でこねられていく右近の吐息が漏れてきます。

◆和田惟長事件―保身の苦しみ

最初の試練は、20歳のときに起きた和田惟長事件です。1571年、高槻城主和田惟政が、摂津国の領主・荒木村重の攻撃を受けて戦死すると、その子惟長が主君となつて高槻を治めることになります。2年後の1573年、家臣の高山父子の人望と力に不安を感じた惟長は、二人を排除しようとして息子右近の暗殺を企てます。そのことを知った右近は、惟長と胸襟を開いて話し合おうとします。しかし、惟長の気は晴れ

ずついに暗がりの中、右近との一騎打ちとなり、深手を負った惟長は間もなく亡くなります。このとき、右近も瀕死の重症を負い、いのちの瀬戸際をさまようのです。

戦乱の世に生を受けた、初めて命のやり取りの末に深手を負った右近、当て外れの人生に向き合うときでした。守ってきた立場や身分を脅かされると、人は必死の形相で立ち向かいます。保身の苦しみです。右近は、生きているのか死んでいるのかわからない命の瀬戸際で、何を垣間見て、誰と出会ったのでしょうか。このとき右近は「神のことを深く想い、驚くほどの成長を遂げた」とルイス・フロイスは記録しています。

それはちょうど、日本の教会に新しい宣教の風が吹き始めていたときでした。それまで既存の諸宗教を意識した型どおりの教義を守ることを教えていた教会は、神のいつくしきはキリストの十字架の出来事を通して現され、主は罪深い私たちを救うためにいのちをささげてくださいという教えをもとに、一人一人を神との親しさへ招き始めたのです。自ら傷を負った神が、人の傷にそつと触れたときは人は、「わたしの主、わたしの神よ」(ヨハネ20・28)と告白します。和田惟長事件は、右近にとって最初の回心の恵みに触れたときでした。

◆荒木村重事件―板ばさみ

二回目の試練は、高槻の城主となつて5年目の1578年、28歳のときでした。摂津国一带を治める荒木村重は、高山父子にとっては主君になります。そして、荒木村重自身は織田信長の配下でありました。その村重が信長に不満をもっていた毛利輝元や石山本願寺と手を結び、信長に謀反を起こして戦い挑んだのです。この無謀な計画を知った右近は村重に対して、無益な戦のために人々を不幸にしないようにと何度も進言しました。しかし、そのかいもなく戦は始まったのです。信長は高槻が京都と大坂を結ぶ交通の要所であることをよく知っていました。そのため、まず右近の領地高槻を征服しようとしています。そこで、右近が熱心なキリシタンであることを知っていた

信長は、右近の信仰心にうつつたえ高槻城を明け渡すように仕掛けます。しかも、固辞した場合は宣教師も信者も皆殺しという脅しつきでした。

右近はすでに直接の主君である村重への忠誠のしるしに、妹と長男を人質として差し出していました。板ばさみになった右近は葛藤し、決断に苦しみ

ます。そのとき、霊的指導者だったオルガンティノに使いを送り、助言を求めたのです。オルガンティノは、より上位の者に仕えること、大事なことは深く祈って決断するよう進言しています。最後の決断は信頼して右近に任せました。右近は家臣とその家族も集めて一緒に城内の聖堂にこもり祈りました。ことを控えたら静かに祈り、深く熟慮して決断し、そして行動に移すこと。右近の生涯を貫いた「祈りによる決断」が始まったのは、このときからでした。

右近は2本の脇差しを捨て、髪をそり落とし、巡礼用の白い衣をまとうとオルガンティノと二人で信長のもとを訪ねます。その際、悲しむ家来たちに彼は胸の内を明かします。「日本からキリスト教が減るのではないように……神父たちを見習い一切の地位も財産も捨て、教会と皆を守るために、信長のもとに参ることを決断した。」

こうして、血を流すことなく高槻城を信長に明け渡します。また村重も、これ以上信長と戦っても勝ち目はないと諦め、人質の妹と長男を右近のもとに送り返したのです。村重はその後間もなくして信長に降伏します。荒木村重事件、力関係の上に成り立つ社会の構造的な仕組みからくる苦しみ、生れ落ちた時代の物差しで縛られる苦しみ、右近はこの苦しみの中で祈りと信頼の道をたどり始めます。右近にとって、祈りとは「問いかけること」「静かに聞くこと」「決断すること」でした。村重事件から9年後の秀吉の禁教令、それから27年後の家康の禁教令のときの二回、人生の大きな岐路を前にイグナチオの「霊操」を行う右近の姿

に出会います。キリスト者として私の人生を貫いているのは何でしょうか。

◆秀吉の伴天連追放令―捨ててこそ

三番目の試練は、1587年7月24日、秀吉によって出された伴天連追放令です。それは、九州平定の帰、博多に立ち寄ったとき、突然布告されます。あれほど教会に好意を寄せ、右近を誰よりも信頼していた秀吉が、なぜ、開いていた手のひらをこぼしに変えるように追放令を発布したのか、その真相は、今でもはつきりしてはいません。ただ、歴史の資料から、秀吉の禁教令が右近と深くかわつていったことだけは明らかです。

発布の直前、秀吉は右近のところに何度も使者を送り、棄教を迫っていました。右近は使者に対して毅然と答えました。「わたしは太閤様を侮辱したことなど一度もありません。……たとえ全世界を与えられることがあっても、キリスト教を捨てることはありません。わたしや領地のことは、太閤様の思うとおりになさってください。」その場にいた友人たちはこの返答を聞いて、あわてて右近をいさめます。「右近殿、こ

こはもう少し穏やかに返事をされたほうがいいのでは。うわべだけでも命令に従った方がいいのではあるまいか。」右近はうらたえる友人たちを諭して答えます。「人間にかかわることは変えることができます。神のこと、またその教

えにかかわることは、一点たりとも変えることはできません。」

説得のため、二度目に秀吉から遣わされたのは茶の湯の師匠、千利休でした。利休は右近が棄教しないことは承知の上でした。むしろ、ぶれることない潔さをほめたといわれます。利休にとつて茶の湯が命懸けであるように、右近は茶の湯もそして信仰にも命懸けでした。信仰を深めるほどに右近の茶の湯も深く研ぎ澄まされていったことを、後にジョン・ロドリゲスは「日本教会史」の中に記しています。

捨ててこそ出会える世界、解き放たれた自由さ、それが利休の茶の湯の心でした。いくつもの試練を通してこねられ、育まれてきた右近の信仰は、すでに利休の茶の世界を凌駕していました。

右近はこのときから決定的に「降りていく生き方」を選び取るのです。それは、「降りてきて、へりくだった神」に従うためでした。時の大名や武人たちの目に映ったのは、うらぶれた敗北者ではなく、腹にひとつ重りを落とした者の異質な輝きを放つ姿でした。利休も官兵衛も利家も、その品性に憧れました。そして、次代を模索する人たちが、今また右近を追いかけています。

「イエスはご自分の全生涯をわたしたちの模範となさいました……自ら身を低くされることによってわたしたちに倣うべき模範を示し、その祈りによって祈りに招き、貧しさによって貧しさで迫害を自由に受け入れるように招いておられます」(カテキズム520)。

心の灯を再び

50周年記念ウルトレヤ

長崎教区でのクルシリヨ開催50周年を記念し、



あいざつする指導司祭の中村倫明師

9月22日(木) 福江教会で、82人のクルシリストと共に下五島地区記念ウルトレヤが開催されました。あ

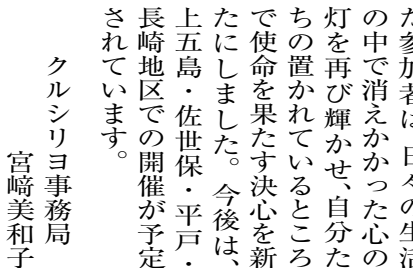
「デコロレス!」あの日に戻り、また出かけよう―神のいつくしみを共に生き、伝えるために「のテーマのもと「クルシリヨ賛歌」などの歌から始まったウルトレヤは、前指導司祭の三村誠一師の講話やグループでの分かち合いなど、クルシリヨの3日間に戻ったような楽しい雰囲気の中で進められました。



前指導司祭の三村誠一師

また、3人のクルシリスタが「私の第4の日」と題して、クルシリヨを終えてからの決意や信仰生活、小教区での取り組みなどについて発表し、

共同体の一員として頑張っている姿に他の参加者も勇気づけられ、大きな拍手がわきました。下五島地区の司祭団と共に感謝のミサをささげた参加者は、日々の生活の中で消えかかった心の灯を再び輝かせ、自分たちの置かれているところで使命を果たす決心を新たにしました。今後は、上五島・佐世保・平戸・長崎地区での開催が予定されています。



クルシリヨ事務局 宮崎美和子

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) **栄光式典社**

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台



佳織木工所
kaori-mokkousho.com

《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956 (23) 1867 代表 ラウラ・ビカーニア 濱口 佳織



主の平安



五島式典社(斎場)
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

マイホームの美容と健康に!

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

日本キリスト教団長崎地区社会部集会 在留外国人への諸派を超えた支援を

「世界難民移住移動者の日」を迎えた9月25日(日)、小片聡牧師(日本キリスト教団長崎地区社会部委員)からカトリックの外国人支援活動の学びたいとの招きを受け、川口昭人神父(日本キリスト教団長崎地区社会部委員)と保険労務士の小松公寛氏(広島・幟町小教区所属)による講演集会が開かれた。会場と

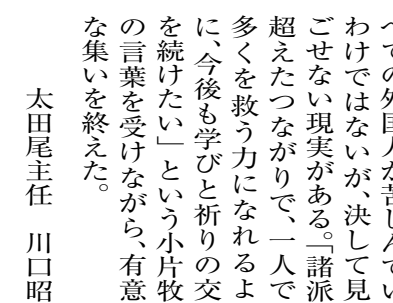


会場の日本キリスト教団大村教会

なった日本キリスト教団大村教会には、プロテスタント・カトリック信徒を含め約50人が集った。テーマは「日本で暮らす外国人の抱える問題——フィリピン人の技能実習生の問題を中心として」。日本のカトリック教会が取り組んでいるさまざまな案件の中で「技能実習制度」の問題を取り上げたのは、被害者件数が年々増加しており、しかも都心だけの問題ではなく、地方での被害件数が多くなってきたからである。

15年以上にわたって、問題を抱えた在留外国人への支援と救済活動に携わってきた小松氏は、多くの外国人労働者の支えで成り立っている日本社会の中で、フィリピンやベトナムなどの東南アジアから技能実習制度を利用して働きに来た人々が、劣悪な労働条件と住環境を強いられ、現状を報告した。一日18時間労働、休日なし、残業代も払われず、トイレとシャワー室が一つだけの軒家に、2部屋に分けて住まわされた9人のフィリピン人女性たち。仕事終わりのシャワーやトイレは順番待ち。しかも一人2万5千円の家賃を払わされている。これらの報告に、聴衆からはため息が漏れ聞こえた。

法整備が整わないこともあるが、明らかに違法な扱いであるにもかかわらず、外国人の言葉の問題や弱みにつけ込む手口で、非人権的な状況を生み出している。被害者本人が、人権的にも法的にも不当な扱いを受けていることを理解できるように、間に立つ通訳奉仕の存在は大きい。教会のネットワークを通じて、通訳担当を紹介することも大きな力となる。小松氏も含めて、ユニオン他、NPOなどの団体とキリスト者の



講師の小松公寛氏

ネットワーキングで協力体制がより活きていけば、一人でも多く救える状況が生まれる。長崎県内でも、「移住者と連帯する全国ネットワーク」の連絡を受け、強制労働下にあるカンボジア人女性12人のために、教会のネットワークで通訳などが見つかった対応できたことが報告された。この制度で来日しているすべての外国人が苦しんでいるわけではないが、決して見過ごせない現実がある。諸派を超えたつながりで、一人でも多くを救う力になれるように、今後も学びと折りの交流を続けたい」という小片牧師の言葉を聞きながら、有意義な集いを終えた。



田尾主任 川口昭人

教区生涯養成委員会は9月18日(日) 13時、公開聖書講座をカトリックセンターで開催し、約170人が受講した。今回は講師に日本カトリック神学院で聖書を教えておられる山下敦師(大分)を迎え、「預言者の召命と使命」のテーマで話をしていた。山下師は、まず第二バチカン公会議の『教会憲章』を参考にしながら、聖職者だけではなく、



洗礼を受けたすべての人はキリストの証人として

召された人の生き方

秋の公開聖書講座

ことばを宣べ伝える預言職に召されていることを話された。さらに、その使命をどのように受け入れ、どのように生きるべきかを旧約の預言者の召命物語と照らし合わせながら説明された。「神は人間の自由を尊重しながらも、私たちの経験や成功失敗にかかわらず私たちを召し出される。他の人たちから受け入れられないという苦しさを体験し、情熱は衰えてしまうかもしれないが、神の私たちに炎は消えることはない。そして神は私たちに使命を果たすためにふさわしい力、助けを与えてくださる。」

若く熱意にあふれた山下師の話に、集まった人々は熱心に耳を傾けていた。

委員長 谷脇誠一郎
オリエンテーションで

初日の第一講話は、高見三明大司教が「典礼刷新」について公会議から現代までの流れを話された。第二バチカン公会議における典礼刷新では、「典礼の母国語化」への道が開かれ、対面式ミサへ変わるなどの象徴的変革がなされたという。

第二講話は、神言修道会の市瀬英昭師により「典礼における信徒の役割」をテーマに行われた。典礼刷新の表れとして、典礼祭儀への会衆の「行動的参加」が強調され、「無言の傍観者」であってはならないという。

二日目は、中央協議会の典礼委員会秘書を務める宮越俊光氏により、「ミサへの正しく行動的な参加」について説明がなされた。「行動的な参加」とは、意識的、積極的かつ効果的な仕方での祭儀に参加することであるという。

飽の浦教会 井手義美

『典礼憲章』を学ぶ

NCK主催の信仰養成講座

は、NCKが46年前に教皇庁の認可を得て設立された経緯が説明された。

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

出向いていく使命を強調

聖トマスと十五殉教者祭

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

9月25日(日) 14時から中町教会で、聖トマスと十五殉教者祭が行われた。教区主催、長崎南地区評議会運営。始めに同殉教者記念庭園に参加者が集まり、聖

神のいつくしみは私たちの身近にある

津・大江・本渡小教区協賛が執り行われた。今年10月9日(日) 13時から南島原市の原城本丸跡

津・大江・本渡小教区協賛が執り行われた。今年10月9日(日) 13時から南島原市の原城本丸跡

津・大江・本渡小教区協賛が執り行われた。今年10月9日(日) 13時から南島原市の原城本丸跡

津・大江・本渡小教区協賛が執り行われた。今年10月9日(日) 13時から南島原市の原城本丸跡

お知らせ

日本の教会における祈願日の新設と名称変更

「被造物を大切に」の祈願日として新設された「World Day of Prayer for the Care of Creation」を祈願日として設定するよう定めたことを受け、日本司教団は今年2月の臨時司教総会において、毎年9月の第1日曜日を日本の教会における祈願日とすることを決定した。献金は伴わない。

時、山田教会。教派を超えて祈りと食事を共にする集い「朝禱会」●長崎・第3火曜(11月15日) 7時半、日本基督教団長崎古町教会●大村・第3水曜(11月16日) 7時、日本バプテ

自死された方々のためにささげる追悼ミサ 11月6日(日)14時、浦上教会被爆マリア小聖堂。ゆりの会主催。教区人権委員会協力。

黒瀬の辻殉教祭 11月13日(日)14時、平戸市生月町クルスの丘公園。雨天

平戸ザビエル祭 12月4日(日)14時、平戸ザビエル記念教会。

ゆくいきやんせ

第31回NWM in 鹿児島



（ゆ）のテーマのもと、全国から108人の参加者がありました。鹿児島は福音上陸の地であり、原点を感じた集いでした。

1日目は、アイスブレーキングや分かち合いから始まり、夕方から夜にかけては、夕の祈り、各教区の紹介をプレゼンテーションするインフォメーションや交流会で、教区を超えての交わりができました。分かち合いでは、班メンバーの出身地域の名物を紹介して自分を知ってもらい、また参加者が思う自分の信仰の原点を思い起こして、それを班メンバーで分かち合いました。

2日目は、ザビエル上陸記念碑で、ザビエルと宣教を共にしたヤジロウについての寸劇を、鹿児島教区のスタッフの皆さんが行いました。その後はザビエル記念聖堂まで徒歩巡礼しながら、鹿児島にちなんだクロスワードを解きました。最後の感謝ミサでは、この2日間得られた恵みに感謝し、笑顔になったミサで次回は東京教区主催で行った。

韓国・テグチーム優勝

司祭団ソフトボール大会

9月27日(火) 9時半

から、恒例の司祭団ソフトボール大会が長崎市の立山市民運動場で開かれた。長崎市内チーム、五島チーム、佐世保・平戸チームに加え、今年は韓国・テグ大司教区から12人が参加し、熱戦を繰り広げた。

山内啓輔師(浦上助任)とテグ教区代表による選手宣誓の後、長崎市内チームと佐世保・平戸チーム、五島チームとテグチームで一回戦を、昼食をはさんで午後からは、勝者の長崎市内チームとテグチームが決勝戦を、敗者の五島チームと

「いつてらっしゃい」のテーマのもと、来年3月18日(土)・19日(日)に開催されます。

小ヶ倉教会 橋本裕紀

刷新と平和を問う

聖ヨハネ23世のDVD上映

10月10日(月) 14時、カトリックセンターで日本語字幕版DVD『聖ヨハネ二十三世 平和の教皇』(字幕版DVD制作委員会)が上映され、約100人が集った。

映画は2部構成になっており、第1部は教皇ピオ12世の後継者を選ぶコンクラベの経緯を軸に、アンジェロ・ジュゼッ



に選ばれた。第2部は、教皇としてのわずか4年7カ月余の活躍を展開。高齢のため

「中継ぎの教皇」と呼ばれながら、周囲の予想に反し、第2バチカン公会議の開催を通してバチカンの古い体制を刷新していく。東西冷戦やキューバ危機などの困難な状況にあっても、大きな愛と人間性をもって、平和を訴え続けた。

上映後にはDVDの紹介販売が行われ、長崎南地区の女性信徒は「購入しました。地域の信徒の皆さんと一緒に見ます」と話していた。

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口 晃
〒558-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

野球チームとして活動しているテグチームが底力を発揮。ソフトボールに不慣れながら徐々に感触をつかみ、長崎市内チームを上回る打線で見事優勝を勝ち取った(写真)。



新刊良書

★ミサのソフトウェアー 毎回のミサで変わりたい 著IIベルナルド・チョン・フン 訳IIエステル・イ・ミョンヒ、嘉松宏樹 信徒のための、「ミサ」に対する新たな教理解釈「ミサ」をまとめた1冊。著者はソウル教区司祭。税込500円(送料別)。注文はNPO法人女性ネット SaveSara (Fax 03・6807・8442、8443)へ。売上金は同団体の活動支援に充てられる。

★回勅 ラウダート・シ ともに暮らす家を大切に 大気、海洋、河川、土壌

の汚染、生物多様性の喪失、森林破壊、温暖化、砂漠化、山積された廃棄物……。人間の活動が他者と全被造物とに与える影響に関する、連帯と正義の観点からの考察。しわ寄せを被る開発途上国と将来世代に対し、担うべき責任とは何かを問う。カトリック中央協議会、税別1400円。

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備
(有)小田警備保障
警備員募集!
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦

タンスの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)
貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・学生引越
・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休 受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)4847-7151 844-1420

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」

(ルカ19・5)

黙想中、一枚のメモが置かれていた。「Nさんより電話。息子退院。壁に2カ所の穴、パソコン壊した。」

入院していた息子が退院してきたが、怒りを爆発させたのだらう。自室かどこかの壁を拳でたたいて2カ所穴をつけた。自分のパソコンを投げて壊した。これらの行為は成長とともに繰り返され、頻度も増え、その都度強制または保護入院となっていた。

Nさんとは15年来の付き合いで、長崎に異動後は年3回ほど長距離電話で繋がっている。話を持たない私にとって、家

みことばにふれて 132 米田綾子シスター (純心聖母会)



避けたい人物として私の中で区分されていく。そんなとき、大原 猛神父さまの「いつばいのお茶」という詩を友人にいただいた。

さながら。一方で明るく開放的な人柄と純粋な信仰の持ち主である。彼女との関わりで、約束を突然キャンセルされたことが何度かあった。携帯電話を持っていない私にとって、家

「イエスさまを一目見たい」との熱望をもって木登りしたザアカイに、イエスさまはサブライズをプレゼントされた。「ぜひあなたの家に泊まりたい」と。彼の心臓は破裂するほど驚き、歓喜に躍動したことだろう。

マルガリタ・マリア・アラコク 小島フジ修道女 (お告げのマリア修道会)



1922年五島市生まれ。42年久賀修道院に入会。58年初誓願、65年終生誓願宣立。小島明師福江助任)の伯母にあたる。長きにわたり、久賀や奈留の司祭館・保育所などで調理やカテキスタを担当。小柄な体で、寛大な神の存在を身をもって証した。寡黙な中にもユーモアにあふれ、心癒やされた人は数多い。

10年ほど前に脳梗塞を患い、入退院を繰り返しながら五島市の介護老人福祉施設「聖マリアの園」や「聖マリア病院」で手厚い介護と看護を受けた。不自由さと闘いながら感謝とお詫びを伝え、姉妹の見守りの中、御父のもとに帰った。

葬儀ミサ・告別式は9日、聖マリアの園で行われた。

石 碑 文字彫刻 墓地工事 リフォーム 墓地分譲
なが さき せき ちよう **長崎石彫** ヨゼフ 岩永 博明 ☎(095)862-2469 長崎市梁川町6-17 岩永ビル

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付 白蟻防除施工士 **大田白蟻研究所** 代表者 マリア 大島 睦子 (〒850-0811) 長崎市失の平1丁目14番15号 会長 095-822-8436 FAX 095-822-8488